

世田谷村日記

石山修武

田谷村に帰る。
絵本の原稿九枚書く。

十一月七日

昨日とは違って変わった暖かい陽光が差し込む朝。

十時研究室。渡辺とコーヒーを飲み無駄話し。十五分北京ミーティング。三〇分丹羽、野村他と他の打合わせ。十四時迄。十五日の21C農村研究会の準備がかりである。北京の計画と21C農村Pが両極の惑星として計画されているのを解ってくれと想うばかり。しかし、わからん方が自然なのだ。十六時新宿、塩野君と打合わせ。塩野君は山口勝弘との絵本のシノプシスまで作ってきてくれた。今朝山口氏に送った私のモノとは随分ちがったものであった。今の子供達（ガキン児共）には、もう少し酷薄な骨格を持つ物語空間の方が良いように思う。十九時世田谷村に戻る。福田和也氏が毎日新聞に論を張っている。この人の論は広い裾野があつて驚く。

十一月八日

早朝少し計りエスキス。十時研究室打合わせ。十一時前ワイマール・パウハウス建築大学ライター教授、数名の先生、十五名の大学院生を連れて来室。今日は秋葉原とデイズニード見学だそうだ。十一時過より森川嘉一郎君の秋葉原レクチャーを共に聞く。十二時半途中で失礼して西調布へ。十四時過昼食を取り外苑前へ。十六時ときの忘れものギャラリーで綿貫さんと打合わせ。話しがはずみ十八時迄。山口勝弘さんとの絵本づくり他について。十九時近くのレストランで冷えたビールを飲んで散会。二〇時世